

平成24年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」実績報告書

1. 事業名称

食・農林水産分野の6次産業人材育成に関するモデル・カリキュラム実施と達成度評価の実証プロジェクト

2. 事業実施期間

委託を受けた日(平成24年7月31日)～平成25年3月15日

3. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

職域プロジェクト

産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの名称

「おしゃべりな畑」実践講座 ～生きた文化財、山形在来作物から学ぶ～

関係するコンソーシアムの名称(職域プロジェクトのみ記入)

食と農を結ぶ産学官連携コンソーシアム(食農コンソーシアム)

4. 分野名

②食・農林水産

「その他」分野名

5. 代表機関

■ 代表法人

法人名	国立大学法人 山形大学
理事長名	結城章夫
学校名	山形大学
所在地	〒 990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

■ 事業責任者

省略

■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

省略

6. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関

構成機関(学校・団体・機関等)の名称		役割等	都道府県名
1	山形大学	総括 講師	山形県
2	東北公益文科大学	連携 講師	同上
3	慶應義塾大学先端生命科学研究所	連携	同上
4	鶴岡工業高等専門学校	連携 講師	同上
5	山形県立産業技術短期大学校	連携 講師	同上
6	酒田調理師専門学校	連携 講師	同上
7	山形大学農学部「産学官」連携協議会	連携	同上
8	つるおか農商工親連携総合推進協議会	連携 講師	同上
9	中小企業診断協会山形支部	連携 講師	同上
10	山形県内各商工会議所・各商工会	連携	同上
11	JA全農山形	連携	同上
12	食農名人・農家民宿お母さん百選	連携 講師	同上
13	山形県直売組織連絡協議会	連携	同上
14	山形県・各市町村	連携 講師	同上

(2) 協力者等

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
栗田公司	庄内バイオ研修センター 主任専門指導員	講師	山形県
尾形恵子	(有)ティップス	講師	山形県
鈴木圭介	長岡野菜ブランド協会 会長	講師	新潟県
長島 忠	(株)元青果 課長	講師	山形県
長南 光	知憩軒 オーナー	講師	山形県
松浦眞紀子	(株)エコ・オフィス 代表取締役	講師	山形県
山本 斉	(株)山本組 社長	講師	山形県
山澤 清	ハーブ研究所 所長	講師	山形県
佐藤天哉	(株)はんどれい 制作部長	講師	山形県
小林好雄	(株)出羽庄内地域デザイン 取締役	講師	山形県
奥田政行	「アルケッチャーノ」 オーナーシェフ	講師	山形県
栗本 久	ぽっぽの湯 支配人	講師	山形県
浅見信子	クリッククラシック シェフ	講師	静岡県
高木 厚	赤倉ファーム 代表	講師	山形県
遠藤初子	山菜屋. Com	講師	山形県
五十嵐幸枝	ビジネスオフィス Clear 代表	講師	山形県

(3) 産学官連携コンソーシアムの下部組織（設置した場合に記載。職域プロジェクトの場合は記入不要）

7. 事業の内容等

(1) 事業の概要

山形在来作物に関係する機関と連携し、在来作物の作り手の増加と、栽培、販売、加工、利用の促進を図り在来作物の高付加価値化を推進する。加えて、講義と実地研修を通じ、安全・安心な在来作物の栽培を実践する人材、及び在来作物を活かした農商工観の連携を進め、新たな食農ビジネスの創出や地域の食及び文化を理解し地域のリーダーとなれる人材の育成を図る。修了要件を満たした者は「やまがた在来作物案内人」として大学が認定する。

(2) 事業の内容について（産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトにおける具体的な取組内容）

食と農を結ぶ産学コンソーシアムの方向性を踏まえ、食・農林水産分野における生産の担い手とリーダーの養成を目的に、モデル・カリキュラムの実施と達成度評価の実証を行う。
講座は以下のとおりである。

（1単位は90分）

種類		単位	時間
講義		31	46.5
実地	焼畑	4	6
	販売	4	6
	調理・加工・試食	2	3
計		43	64.5

講義研修及び実地研修それぞれ1/2以上の単位取得者には、山形大学農学部認定「やまがた在来作物案内人」の称号を付与する。

修得度評価：講義実施日ごとに受講者にアンケートを行い習得度を確認する。

(3) 事業実績について（連携体制、工程、普及方策、計画時に設定した活動指標(アウトプット)・成果実績(アウトカム)の評価等)

①連携体制

参加機関 14機関産業界、参加機関からは講師派遣・助言などの人的な支援を受けるとともに実習先としても支援をうける。講師の派遣、融資制度の紹介、職員の受講、受講生のステップアップ時の連携等。

②実施工程図

項目 \ 月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
委員会	9/4		12/17			2/12		
カリキュラム作成	←→							
講師依頼	9/3							
受講生募集	8/20～9/5							
講義	←→						9/11～1/29	
実地研修	←→				10/6～11/30			
・焼畑	10/11、11/1							
・加工	11/16、11/30							
・対面販売	10/6・7東京江戸川区 10/26・28神奈川藤沢市 10/20～11/26 随時 地元産直施設(あぐり・ふらっと)							
・視察	11/20 地元加工施設2ヶ所							
「やまがた在来作物」案内人認定書授与式								2/12
フォローアップ研修								3/13

③募集方法

- ・大学HPでの公開、カリキュラムの公表 ・各連携する市町村、JA団体等の広報紙に掲載
- ・パンフレットの作成・案内の新聞折り込み
- ・募集期間は8月20日から9月5日 ・募集対象者は:一般社会人 募集予定30名

④講座開始時の受講生の状況

受講者受入数 53名	
職業別内訳	人数
中小企業経営者・従業員	14
農業者	20
農・林・漁・中小企業支援機関	2
新規就業者	4
行政	1
その他 家庭の主婦等	12

⑤講座修了後の受講生の状況

平成24年度「やまがた在来作物案内人」 認定者35名職業別内訳	
職業別内訳	人数
中小企業経営者・従業員	7
農業者	12
農・林・漁・中小企業支援機関	2
新規就業者	3
行政	0
その他 家庭の主婦等	11

⑥「山形在来作物案内人」認定者の講座終了後の効果(成果)

- ・講師や受講生、加工企業等・異業種間のネットワークが充実出来た
- ・農業、食産業の人材の育成につながった
- ・地域における在来作物の広範な利用が進む
- ・受講生と大学とのネットワークが充実した
- ・受講生による「受講生の会」を結成した
- ・在来作物の品目種類、生産量の拡大意向
- ・新規栽培取組・販売拡大意向
- ・在来作物を使った料理の創作・開発意向
- ・加工品の製造販売の取組意向
- ・農家民宿、レストランの開業・拡大意向
- ・新規就農・就業希望
- ・在来作物の案内人(説明人)になる

(4)事業終了後の方針について(継続性、発展性 等)

山形大学農学部附属やまがたフィールド科学センターが地域連携の一環として、本事業の受講生については本事業終了後も各関係機関と連携し、求めに応じて随時個別対応と年一回開催の全体研修でフォローアップ研修を行い、6次産業化の推進を図る。又、気軽に相談できる様コーディネーター室をサポート室としても活用している。

又、受講生からの要望も踏まえ本年度実施した講座をさらに充実、強化させ以下の事項を検討する。

- 1.食品衛生法、表示義務事項などの講義を入れる。
- 2.実地研修に赤カブの他、在来作物を複数取り入れた栽培実地研修を充実させる。
- 3.受講生の状況に応じ2年間で習得できる制度にする。
- 4.連携している他大学、県、鶴岡市などが開催するセミナーや講演を指定し、出席した受講生には関連講座の代替として履修時間として認めることとする。

以上の課題を整理し、引続き本講座を開講し新たな受講生の掘り起こしと、既受講生の取り組みを支援するため本事業に継続して取り組む。